

拳ノ川小学校

「確かな学力を備え、豊かな心を持ち、体力に富み、主体的に活動する拳の子」の育成

校長 上田 壮

◆はじめに

本校は、本年度3名の入学児童を迎え、全校児童16名で教育活動をスタートさせました。ここ数年、新型コロナウイルスの影響で思うような教育活動もできず、子どもたちにもずいぶんさびしい思いをさせました。今年度は、上手にコロナと付き合いつつも、心に残る「拳ノ川小学校で学んでよかった」と子どもたち誰もが思えるような取組を進めていきたいと考えています。



◆学力向上に向けて

本年度、県の1年間の指定事業「授業づくり講座(複式・算数)」を受け、学習指導要領がめざす授業づくりの実現、日常的に授業研究に取り組む風土づくり、自ら学び続け、ともに高め合う教員の育成を目的とし日々取り組んでいます。全国学力学習状況調査や標準学力調査などで本校児童の課題がはつきりとしたなかで、やはり課題克服には日々の授業を振り返り、教師自身の意識を変え、改善に向けて努力していくことが大切です。そういった意味では大変ありがたい研修の場をいただいたと感謝しています。今年2回の授業研究のうち1回目は7月に5・6年生の授業を行いました。それまで指導主事の先生に助言をいただきながら、何度も何度も全員で指導案検討を行い、模擬授業を行い、遅くまであてもない、こうでもないと言いながら話し合いを重ねてきました。「チームこぶし」として一枚岩で頑張っている職員を誇らしくも思い、また、きつとその姿勢は児童の力として伝

わっていくことだろうと感じたことでした。

そのほか、本校独自の取組として「綴り方集会」があります。もう30年以上脈々と続いている作文発表会で、月1回2名ずつ発表していきます。発表者の文章構成力はもちろん、聞き手も「話し合いのはしら」をもとにポイントを押さえながら感想を述べていくなど発信力も鍛えられています。これからも拳ノ川小学校の特色の一つとして代々伝えられていくことでしょう。



◆防災教育のさらなる深化

昨年度までの2年間、実践的防災教育推進事業(土砂災害)の県の指定を受け、地域と一体となった取組を進めてきました。本年度は学んだことをもとに、児童がより主体的に、より実践的に行動できるよいチャンスだと考えさらなる充実をめざしています。本年度は

避難訓練だけとつても、校内だけに留まらず登下校や地域でも行い、思考判断の部分で自分たちはどう行動すればよいのか、考えさせる機会も増えています。

土砂災害の危険区域



の多い拳ノ川地区、知識と行動を兼ね備えた児童の育成に努めてまいります。

◆地域とともに

コミュニティ・スクールとして地域とのつながりが深い本校、それぞれの学年が生活科や総合的な学習の時間などを通して交流や学習を深めています。校区探検やあったかふれあいセンターでの高齢者との交流、三世代ふれあい健診、若山楮の学習、地区防災、そして収穫祭など地域の方々との温かいふれあい体験は、子どもたちの心を育み、自然や地域への愛情や感謝の気持ちを育んでくれます。今後黒潮町で進めているふるさと・キャリア教育と拳ノ川コミュニティ・ス

クールをリンクさせながら、将来町を離れたとしても常に心の中にあると息づいている、そんな大人になれるよう学校・家庭・地域の三者が連動して取組を進めていけるようがんばっていきます。



◆おわりに

全校児童16名を中心として本年度は8名の教職員スタッフ一枚岩となって教育活動に取り組んでいます。心やさしい子どもたち、協力的な保護者の方々、温かく見守ってくださる地域の方々。そんな恵まれた環境に感謝しながらもっとも拳ノ川小学校が素敵な学校となるよう努力していきたいと思えます。

入野小学校 生きるための「実力」を 身に付けた児童の育成

校長 黒田 令子

◆はじめに

今年度は、20名の新1年生を迎え、児童数128名でスタートしました。教職員数は16名です。

本校の学校教育目標は、今年度から「生きるための『実力』を身に付けた児童の育成」としてしています。

児童が大人になったときの姿を見据え、自らの幸福の追求と社会への貢献ができる生きるための「実力」を身に付けさせるため、「今」に付けるべき資質・能力の育成に向け、「チーム入野小」として、家庭・地域との連携のもと、一丸となって取り組む学校をめざしています。

◆育てたい児童の姿の共有

小学校では、6年間で児童を育てていきます。そこで、6年間の学びが「子ども」としてスムーズにつながっていくことがとても大切なことだと考えています。そのため、教職員も「チ

ーム入野小」として、自ら考え、議論し、決めたことを全教員が実践する。実践してどうであったかを短いスパンで検証し改善する取組を行っています。

年度当初には、学校教育目標を具現化するために、入野小学校の児童の強みと弱みを分析し、そこから小学校6年生の卒業時の姿(育てたい児童の姿)を

①自分の意見や考えを持ち、理由や根拠をあげて相手にわかりやすく伝える(話す・書く)ことができる。
②自分の考えと比べながら相手の話を聞くことができる。
③あいさつ、返事、時間を守ることなど基本的なマナーを身に付けることができる。

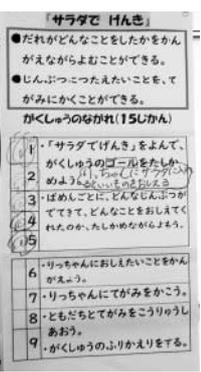
としました。その姿に到達するために学年ごとの育てたい児童の姿を設定し、日々の教育活動で意識して取り組み、学期ごとに検証・改善を行っています。

◆取組①日々の授業から

本校は校内研究主題を「主体的・対話的で深い学びの授業づくり」根拠をもって

説明し合える力を育成する国語科指導を通して」とし、国語科で身に付けた力がほかの教科や領域、実生活に結びつき児童自身の「実力」となることができるよう研究を進めています。単元の初めには、児童とともにこの単元で付けた力を確認し、どのように学習を進めていくのか計画していきます。

児童が学習の見通しを持ち、自ら問いを持ちながら学びを進め、自分の考えを根拠をもって相手に伝えることができる授業となるよう教員同士、日々学び合いを行っています。また、授業では、ICT機器も見



童同士の考えの共有を行う場面や思考を深める場面などで日常的に使用しながらその効果的な活用についても研究を行っているところです。

◆取組②地域にふれ・知り・学び・地域の未来を考える学習から

教科などでの学びをフル活用し、生活・総合的な学習の時間では、地域を学習の場として課題を見つけ探究的な学習を行っています。地域の皆さんには、児童の設定した課題をもとにした情報収集や体験的な活動にたくさんご協力いただいています。心から感謝申し上げます。

地域を「深く知る」、地域について「深く考える」ことで、ふるさとに愛着と誇りを持つとともに「自己をその一員として自覚する」ところにつながるものと考えています。また、仲間とともに活動し、地域の方々に出会うことで、その方々の考えや思いにふれ、その知恵や社会の仕組みを知る過程を幾度も繰り返すことは、今後、社会において対話的

に課題を解決し、未知なる課題を協働して解決し、創造していかねばならない子どもたちに求められる基礎的かつ汎用的な力を身に付けることができます。ものであると考えています。

年度末の「まるごと教育祭」(ケーブルテレビにて放映)では探究的な学習の一端をご紹介します。



◆おわりに

2学期になり、児童会が提案した入野小学校をよりよくするためのボランティア活動を児童が自主的に始めています。4つのボランティア活動に85名が登録をしています。自分たちで学校の課題やみんなのためにできることを見出し、仲間とともに頑張ってくれている児童の姿に私たち教職員も力をもらっています。